

スコルコヴォ・イノベーションセンター関連追加情報

1. はじめに

スコルコヴォ・イノベーションセンター・プロジェクト（以下「スコルコヴォ」）は、メドベージェフ大統領がロシアのイノベーション的発展の象徴的案件として注力しているもので、西側では「ロシア版シリコンバレー」と呼ばれるものである。これは、モスクワ郊外のスコルコヴォにイノベーションの拠点を建設し、ロシア政府が約1億9,000万ドルを投資するとともに様々な優遇策により世界的企業の研究開発拠点を誘致してロシアのイノベーションの拠点にする構想である。

このプロジェクトについて、9月にロシア連邦大統領府のドミトリー・ルデンコ担当官より詳しい説明¹を受け同プロジェクトが単なる研究開発拠点の集積地ではなく、法制度、社会基盤、労働倫理等、幅広い領域におけるロシア近代化のベスト・プラクティスの発信地としての役割を担うことを目指す壮大な構想であることについての認識を得たところである。

今回、スコルコヴォの設立主体であるスコルコヴォ基金のアレクセイ・シトニコフ氏が先月日本で行った「スコルコヴォ計画プレゼンテーション」²資料から、前回調査時からの追加情報をまとめる。

2. 追加情報

(1) スコルコヴォの設立目的

・スコルコヴォの明文化された目的は以下の通り。

- ・イノベーション的起業を促進し、起業文化を国中に普及させる。
- ・ロシアを世界経済に統合するためのイノベーションの拠点となる。
 - ① 海外から専門家を誘致し、ロシアにおける人的資源・イノベーション的才能開発のための条件づくり。
 - ② 最先端の研究に基づく国際競争力ある製品を開発する。
 - ③ ロシアに国際的なイノベーション企業を生み出す。

¹ 文末《参考》参照。なお、説明内容及び面談記録は筆者による「ロシア近代化に関する現地調査報告」（2010.10）参照

² Aexei Sitnikov “Skolkovo Innovation Center : frequently asked questions” 12/11/2010

(2) スコルコヴォの対象者

- ・ スコルコヴォは多国籍企業のための免税オフショアと理解されている面があるが、それは正確ではない。
- ・ スコルコヴォ参画対象：ロシア人及び外国人学生、研究者、教育者、コンサルタント、企業家、ベンチャーキャピタリスト、多国籍企業
- ・ これらの者にはそれぞれの参画目的に最適なステータスが与えられる。
- ・ ただし、スコルコヴォに参画する者の研究所や製造拠点が必ずしも物理的にスコルコヴォ内にある必要はない（後述）。

(3) スコルコヴォの運営主体

- ・ スコルコヴォの運営主体はロシア政府ではない。政府は初期費用を拠出し、将来に渡る支援をコミットメントするのみ。
- ・ 運営主体：「スコルコヴォ基金(Skolkovo foundation)」－独立の理事会を持ち、特別法によって規制される非政府団体。
- ・ 「スコルコヴォ基金」の役割はいわば門衛（ゲートキーパー）。「スコルコヴォ・テクノロジー研究所」（後述）等の「スコルコヴォ・ユニット」及びスコルコヴォで活動する者はすべて独立のステータスを持つ。

(4) スコルコヴォの役員

- ・ 役職、氏名、現職等は以下の通り。

	氏名	現在の役職等
評議会議長	ドミトリー・メドベージェフ	大統領
理事会議長	クレイグ・バレット	元インテル会長
〃	ビクター・ヴェクセルベルグ	レノバ・グループ総帥、オリガルヒ
理事	エスコ・アホ	ノキア副会長
〃	ヴァジト・アレクシロフ	ルクオイル会長
〃	アナトリー・アレクサンドロフ	バウマンモスクワ州立技術大学学長
〃	マーチン・ボウユゲス	ブイグ(フランス産業グループ)共同会長
〃	ジョン・T・チェンバース	シスコ・システムズ会長兼 CEO
〃	アナトーリ・チュバイス	ルスナノ CEO
〃	アレクダンダー・ガリツキ	アルマツ・キャピタル・パートナーズ MP
〃	ミハエル・コヴァルチュール	「クルチャコフ・インスティテュート」会長
〃	ピーター・レッシャー	ジームス会長兼 CEO
〃	ウラジミール・ラシェフスキ	SUEK 会長兼 CEO
〃	エリック・E・シュミット	グーグル会長兼 CEO
〃	ラタン・タタ	タタ・サン会長

(5) スコルコヴォの 5 原則

- ・ 明文化されたスコルコヴォの運営原則は以下のとおり。

- ① スコルコヴォは国際レベルの人材、機関、企業にとって魅力的であること
- ② スコルコヴォの生態系は自律的であること
- ③ 基金はできる限り民間部門の参加とそれらの間の競争促進に努め、民間企業がなし得ない領域における活動のみに責任を持つ
- ④ スコルコヴォの物理的及びネットワークベースの（バーチャルな）構成要素の開発は同時並行的に進める
- ⑤ 相反する機能は常に独立したガバナンスを持つ

(6) スコルコヴォのパートナー

- ・ スコルコヴォのパートナー企業は以下の 15 社（機関）
ボーイング、NOKIA、ルクオイル、MIT、ブイグ（BOUYGUES）、シベリア石炭エネルギー会社（SUEK）、グーグル、シスコ、ルスナノ、インテル、ジーメンス、VEB、アルマツ・キャピタル・パートナーズ、タタ、クルチャトフ研究所

(7) スコルコヴォの研究主体

- ・ 「スコルコヴォ・テクノロジー研究所（Skolkovo Institute of Technology : SIT）」
- ・ SIT スコルコヴォにおけるイノベーションの主要生成元となる。
- ・ 「テクノロジー・クラスター」（①エネルギー、②バイオ、③IT、④宇宙、⑤核）が新テクノロジー及び製品開発にあたる。

(8) スコルコヴォ・テクノロジー研究所(SIT)について

- ・ SIT の主な活動内容は以下のとおり。

- ・ 応用研究、テクノロジー専門知識開発
- ・ 国際的に有名な先端的教授陣招聘
- ・ 先端的な研究情報発信
- ・ 商業的開発可能な IP（知的財産）創造
- ・ テクノロジー専門家の学位プログラム開発
- ・ 他学術機関と共同で国際的レベルの学位プログラムを開発
- ・ 最高レベルの学生誘致、起業支援
- ・ 学術機関の研究室を設置・運営、またはネットワークベース研究室（後述）支援
- ・ 内外研究機関とのネットワーク形成
- ・ 海外の研究機関向け補助金支給：研究者及び教育者をパートタイム雇用又はネットワーク化。
- ・ 教育者への給与支給及び研究資金ファイナンス
- ・ ロシア研究機関向け補助金支給、専門家派遣（見返りとして当該研究機関のインフラを利用するとともに SIT 補助金および当該専門家による発明に関する IP 取得

(9) スコルコヴォの研究以外の活動

- ・ スコルコヴォは研究以外に研究成果の商業化、製品開発を支援する。
- ・ イノベーションのバリューチェーン（研究→開発→マーケット参入→発売）

- ・ ディスラプティブ技術研究
- ・ イノベーターによる新製品・サービス開発支援
- ・ 新しいビジネス開発環境整備
- ・ 研究成果の商業化のために以下の機能を持つ
 - －技術ブローカー
 - －特許事務所
 - －コンサルティング会社
 - －専門的教育者、助言者
 - －ロシア及び海外に駐在員事務所を置く
 - －マーケットリサーチ機能
- ・ 投資委員会がファンドや企業に日常的にコンタクトする

(10) 他のイノベーションセンターとの違い

- ・ 「スコルコヴォは「ロシア版シリコンバレー」を言われることがよくあるが、決してシリコンバレーの模倣ではない。」
- ・ 「スコルコヴォはイノベーターの「レゴ」、すなわち、研究者、大学、多国籍企業、ベンチャーキャピタリスト、政府、そして世界中のあらゆる種類の事業体の協力によって作られ、最も創造的なイノベーション、投資、教育、起業、研究、環境、リクレーション環境の創出を目指す極めてユニークな国際的、社会的プロセスである。」

(11) スコルコヴォ進出に対する優遇措置等

- ① 最長 10 年間 VAT 免除（年間利益 1,000 万ドル未満かつ売上 3,000 万ドル未満の場合）
- ② 法人税免除（年度利益が 1,000 万ドル未満かつ売上 3,000 万ドル未満の場合）
- ③ 輸入関税、VAT 払い戻し
- ④ OECD 技術規則適用

(12) スコルコヴォの斬新性

- ・ 旧ソ連時代にも「イノベーションセンター」は存在したが、それは政府主導のいわば「上から押し付けられたもの」であった。
- ・ しかし、イノベーション文化は上から押し付けることはできない。
- ・ ロシアは新しい価値観を企業家を必要としている。そのような企業家は 1990 年代には存在しなかった。そのような企業家の新しい価値観をスコルコヴォからロシア国内に広める。

(13) スコルコヴォの範囲

- ・ スコルコヴォのルールは、スコルコヴォに登録している限りどの事業体にも適用される。これを「ヴァーチャル・スコルコヴォ・ルール」という。
- ・ したがって、スコルコヴォのスタートもある時点で物理的インフラの完成を機に一度に開始されるのではない。
- ・ スコルコヴォにおいて最も重要なことはコラボレーション：コレボレーションが生まれれば、スコルコヴォはスタートする。
- ・ 「ヴァーチャル・スコルコボ・レジデンツ」のステータス付与によってそのプロセスを促進する。

(14) 最近の動き及び今後の予定等

- ・ スコルコヴォ特別法：2010年9月 ー完了
- ・ ビジネスモデル承認：2010年10月
- ・ シリコンバレーとボストンに駐在員事務所開設：2010年11月
- ・ 最初のスコルコヴォ・レジデンツ企業を登録：2011年1月
- ・ スコルコヴォ・テクノロジー研究所の概念設定：2011年2月
- ・ キャンパス建設：2011年～2015年

以上

《参考》

- ・ ドミトリー・ルデンコ大統領府担当官のスコルコヴォに関する説明内容（2010年9月23日）

(1) スコルコヴォ・プロジェクトの基本思想

- ・ ロシアの知識国家としての基盤は90年以降失われつつある。多くの研究者が国外に流出し、予算も大きく減少した結果、ロシアにおいてイノベーションは無くなってしまった。このことは、今後ロシアがグローバル競争を勝ち抜く上で明白な脅威である。
- ・ この現実を踏まえた上で、スコルコヴォ・プロジェクトの基本思想は、まず科学に優先的に取り組むということである。

(2) 重点領域

- ・ プロジェクトは①バイオテクノロジー、②IT、③エネルギー効率、④宇宙／テレコム技術の4つの重点領域に焦点を当てる。
- ・ この4つのセクターをスコルコヴォに集中させて相互に結合させる。個人的意見では、その中でもバイオテクノロジーが最も重要と考える。
- ・ 各セクターには具体的な成果目標を設定する。

(3) バリュー・チェーン、学際的アプローチ、マーケット指向

- ・ スコルコヴォにおいては、各セクターにおいて、教育、研究開発、製品化・商業化から構成されるイノベーション・クラスター間のバリューチェーンを構築する。
- ・ スコルコヴォで行われる研究開発プロジェクトは、製品化ニーズの高い物に関するものに集中する。製品化のニーズが高いかどうかを選択基準となる。我々はすべての製品を商業化したいと考えている。
- ・ そのために、スコルコヴォには NOKIA やシスコシステムズの CEO が関与しており、彼らがマーケット指向のサービスを作り出す。
- ・ 教育、研究開発、商業化の間に学際的アプローチを適用し、そのための体制も整備される。

(4) スコルコヴォ・イノベーションセンターの構成

- ・ プロジェクト全体は大統領が統括する。科学、諮問委員会にはロシアと米国のノーベル賞科学者が加わるなど、国際的な専門家が多く参画する。
- ・ スコルコヴォの理事には NOKIA のエスコ・アホ副会長、シスコ CEO のジョン・チェンバーズ氏やグーグル CEO、エリック・シュミット氏、ルスナノのアナトーリ・チュバイス氏などが就任する予定である。
- ・ 評議員会には、大統領以外に財務大臣、経済発展大臣、ソビャーニン副首相やフルセンコ教育科学大臣などが加わる。プロジェクトが国家の総力を上げたものであることを示す。
- ・ スコルコヴォは、マーケティング価値の高い製品の生産に焦点を当てている。そのために NOKIA やシスコの CEO が関与している。彼らがマーケット指向のサービスを作り出す。

(5) 20 世紀型産業政策との違い

- ・ スコルコヴォ・プロジェクトは 20 世紀型産業政策とはまったく異なる、バイオ、IT、エネルギー効率などのマルチ・テクノロジー・プロジェクトである。産業政策上の措置ではない。
- ・ スコルコヴォ・プロジェクトは、将来的に需要のある新技術を生み出すためのプロジェクトで、ロシアに真のイノベーション的発展のブレークスルーをもたらそうとするもの。完全にビジネス指向のプロジェクトである。

(6) スコルコヴォ・プロジェクトの斬新性、ベスト・プラクティス方式

- ・ スコルコヴォ・プロジェクトには新たな企業登録手続等を含む、全く新しい法的ベースが適用され、それらはその後全国に適用される。スコルコヴォはいわば機関車の役割を果たす。
- ・ スコルコヴォでは、すべてのメカニズムが適切に機能するようにする。スコルコヴォは完全に「汚職のないゾーン (corruption free-zone)」とする。それがスコルコヴォ・プロジェクトの社会的意義の 1 つである。
- ・ スコルコヴォには起業的環境を整備する。多くの新しい企業がスコルコヴォで活動しやす

くするために、特別の税制や関税、さらに、スコルコヴォへの訪問者に適用される特別のビザ発給規則等を制定する。このプロジェクトを進めるために全く新しい道を切り開くつもりである。

- ・ 例えば、現在、ロシアで会社登録するには長い列に並ばなくてはならず、期間も1週間から10日を要するが、スコルコヴォでの会社登録は10分以内に済むようにする。
- ・ スコルコヴォ方式がベスト・プラクティスとなる。まず、会社登録を管轄する国家機関にスコルコヴォに適用する新たな手続きを導入させ、次にそれを国中に拡大する。他の機関についても同様の手法を取る。

(7) シリコン・バレーとの違い

- ・ スコルコヴォについて「ロシアのシリコンバレー」という呼び方があるが、それはあまり好きではない。シリコンバレーよりもスコルコヴォの方がより進んでいる。国家の関与の度合いも高く、より良い環境が整備される。スコルコヴォで活動する企業はより多くの報酬を得ることができるであろう。
- ・ スコルコヴォとシリコンバレーの違いは、イノベーション・クラスターのあり方である。シリコンバレーのクラスターの方式はスコルコヴォには適用できない。我々はゼロから作らなくてはならないからだ。

(8) スコルコヴォの人材

- ・ スコルコヴォには世界から研究者を引き付けるような環境、すなわち、高い生活水準を実現する。
- ・ スコルコヴォはグローバルプロジェクトであり、人材については世界中に目を向ける。

(9) 新たなモラル構築の必要性

- ・ ハイテク企業の1人あたり売上高は、石油産業に比べてかなり少なく、そのことは石油ベース経済の多様化が難しいことを示している。
- ・ 若い人がハイテク企業に就職するよう、新しい経済的価値観、モラルを作り出さなくてはならない。

(10) スコルコヴォを巡る政治状況

- ・ スコルコヴォ・プロジェクトの効果が上がるには10年以上かかる。そのことから、スコルコヴォは資源の浪費だと主張する政治勢力がある。
- ・ エネルギー産業が、連邦予算の取り分が少なくなることから、スコルコヴォ・プロジェクトに反対している。政治的にも非常に難しい問題がある。しかし、大統領は強力に支援している。